

○中山間地域活性化の営農プラン策定(水稲、野菜、観光農業:10.7ha)

支援テーマ:集落営農プラン策定

相談内容

■相談内容

豊能町牧地区(中山間地域)では、令和元年に集落営農法人(『牧のさとやま合同会社』)を設立しており、ほ場整備を機に、将来に渡って地域を活性化していくため、地域資源や立地も生かした営農プランの検討・作成について相談があった。

■現状課題等

- ・生産者の高齢化や担い手不足等から集落営農法人を設立するなど、当地区の危機感が高い。
- ・法人は水稲栽培を活動の中心としているが、経営規模等から大幅な省力化や生産コストの削減は見込めず、新たな取組みを検討する必要があった。
- ・機構関連農地整備事業の導入に向け、具体的な土地利用を明確化する段階にあった。



地図を広げ未来の集落の姿を共有

相談所の支援内容

■支援内容(大学教授)

○支援チーム

府(農の普及課、耕地課)、町担当者、専門家(大阪経済大学・山本教授(地域農業経営))

○支援内容

支援を始めるにあたり、営農プランを集落全体が望み、共感・協力を得られる内容とするため、まずは法人に対し、制約なく自由な意見を求めていくことを支援チーム内で確認した。

支援は月1回ペースで行い、専門家のリードのもと、集落の理想的な将来像を共有した後、達成に必要な手段・手法を幅広く、かつ深掘りすることに時間の多くを割いた。

また、法人の参加者は積極的に意見を出し、全員の前で発表することで、プラン作成への意識がより高まるよう努めた。



集落の活性化に向け真剣に議論

【専門家(大学教授)による指導】

プラン作成・検討のリード・とりまとめ、優良事例紹介等の助言

【府・町による支援】

栽培技術・経営等営農に係る助言、ほ場整備計画等への反映・助言、補助事業活用に係る助言

支援の成果・現在の状況

■支援の成果・その後の状況

7回に渡った検討・支援の結果、これまで進めてきた消費者との交流活動を発展させ、観光農業による活性化を新たな主軸とする営農プランを策定した。

策定後は消費者団体、JAなどの関係機関に対し、プラン実現に向けて協力を求めたほか、集落全戸を対象にした説明会を開催し、機運を高めている。

今後、プランに基づき観光農園の開設をめざして新規品目の試作を行うなど、ほ場整備後を見据えた取組みを始める予定。



策定された営農プラン(イメージマップ)